

下部消化管内視鏡検査・治療の説明書

【大腸内視鏡検査とは】

内視鏡を肛門から挿入し、直腸から盲腸までの大腸全体を詳細に調べる検査です。ポリープやがんなどの異常が見つかった場合、内視鏡治療が可能であれば、その場で内視鏡を使って病変を切除することがあります。病変の大きさや形によっては、切除が難しい場合もありますのでご了承ください。

【大腸ポリープを切除する必要性】

大腸ポリープの多くは、大腸粘膜にできた「隆起性の病変」です。大部分は良性で、すぐに身体に害を及ぼすことはありませんが、そのまま放置し大きくなると出血し、貧血の原因となることもあります。また、「前がん病変」と考えられるポリープには、がん化のリスクがあります。このため、大腸内視鏡検査中にポリープを発見した場合は切除することが薦められています。

【原則検査実施中にポリープの切除ができない方】

- ・ポリープが大きい方やポリープの数が多い方
- ・肛門疾患等の手術を控えている方
- ・心臓病、脳血管系疾患等にて抗血栓薬服用中の方
- ・ポリープ切除後1週間以内に、旅行・出張等の予定がある方

【検査までの流れ】

① 検査前日について

検査前日は、消化の良い食事を召し上がっていただきます。**夜9時以降は絶食し、検査当日は食事を摂らないようにしてください。水やお茶は飲んでいただいて構いません。**

② 薬の服用について

検査当日の朝、心臓や血圧のお薬は通常通り服用してください。**糖尿病治療薬を服用中の方は、検査前の服薬については、当院は専門外で適切な指示ができかねるため、必ず事前にかかりつけ医にご相談ください。**安全な検査のために、ご協力をお願いいたします。

(薬の詳細が分かるお薬手帳やお薬をスタッフにお見せください。)

③ 前処置について

腸の洗浄が不十分だと、詳細な検査ができません。検査当日の早朝、ご自宅または職場で腸管洗浄液を1.8リットル飲んでいただき、腸の洗浄を行った後に検査を行います。

④ 検査直前について

当日は鎮静剤を使用するため、検査後しばらくは判断力や反応が低下することがあります。そのため、**車・バイク・自転車の運転は非常に危険です。**ご自身での運転は絶対にお控えください。ご不便をおかけしますが、安全のため、公共交通機関やご家族の送迎をご利用くださいますようお願いいたします。**検査当日は車やバイク、自転車の運転は絶対に避けてください。**

【検査の実際】

- ① 検査中に異常が疑われる場合には、色素を散布したり、良性・悪性の診断目的に粘膜組織の一部を採取(生検)するによる精密検査を行います。
- ② 検査時間の目安は約 10 分から 30 分です。腸の長さや形などで個人差があります。
- ③ 検査中にポリープなどの腫瘍が見つかった場合、内視鏡を用いた切除(ポリペクトミー)や粘膜切除術を行うことがあります。この場合、**検査後1週間ほどは、香辛料の強い食事やアルコールの摂取を控えていただく必要があります。また、スポーツ(マラソンやゴルフ)や遠方への旅行も控えてください。**再度ご予約を確認いただき、鎮痛剤の使用はできるだけ避けてください。また、解熱鎮痛剤(熱さまし・痛み止め)は 5日間位なるべく使用しないようにしてください。

【切除したポリープの病理検査】

切除したポリープは、病理組織検査(顕微鏡検査)を行い、良性か悪性かの最終診断を行います。**検査は、3週間程度かかります。**良性と診断されれば、治療は終了します。

【抗血栓薬を内服されている方へ】

脳梗塞、心筋梗塞などの疾患を予防するために、抗血栓薬が使用されています。抗血栓薬は血を固まりにくくする作用がありますので、抗血栓薬を中止すると、血栓性疾患の予防効果を失い、脳梗塞や心筋梗塞などが生じる危険性があります。このため、**現在の「消化器内視鏡診療ガイドライン」では出血性合併症の危険性が比較的少ないとされている検査・処置では原則として抗血栓薬を継続しながら行うことが推奨されています。**当クリニックでも、「ガイドライン」に沿って、検査・処置を行います。内視鏡検査中に出血性合併症の危険性が高いとされているポリープ切除を行う場合、抗血栓薬の休薬の可否、置換薬の変更などがかかりつけ医等に相談したうえで、改めて後日予約が必要となります。抗血栓薬を内服したまま内視鏡検査を受けることの有益性と出血性合併症の危険性、どちらも十分ご理解されたうえで、今回の検査・処置を受けることをご了承ください。

【鎮静剤の使用について】

当クリニックでは、基本的に鎮静剤を使用して検査を行います。鎮静剤は、検査時の緊張を和らげるために使用しますが、副作用として静脈炎や呼吸抑制が起こることがあります。内視鏡診療における鎮静に関するガイドラインにおいて、鎮静剤・鎮痛剤は内視鏡検査に対する不安や不快感を取り除き、受容性や満足度を改善する効果があると考えられております。**鎮静剤・鎮痛剤の効果は個人差があり、完全に眠ってしまう方もいれば、うとうとする程度の場合もあります。**注射後、数十秒～数分で効果が出ますが個人差がございます。**特にアルコールをよく飲まれる方や、抗不安薬等を飲まれている方は、鎮静剤の効果が弱まるとされています。**検査中は血圧や酸素濃度を測定しながら患者様の状態をモニターしながら行います。またまれに血圧低下、不整脈とそれに伴うショック状態となることがあります。検査終了後、足元がふらつくことがあり、転倒の恐れや検査前後の記憶がなくなることがあります。消化器内視鏡学会による全国調査では、鎮静剤・鎮痛剤投与による呼吸抑制・呼吸停止・ショックなどの偶発症発生率は0.0013%であり、死亡率は0.000022%と報告されております。

検査後は30分～1時間ほど休んでいただきますが、眠気や判断力の低下が残ることがありますので、**検査後に運転の予定がある場合は、鎮静剤・鎮痛剤は使用できません。また検査後に大事な用事・仕事があり、お帰りを急ぐ場合は鎮静剤・鎮痛剤の使用が出来ません。**

【起こりうる偶発症(注意しても、事前に「絶対ない」とは言い切れないもの)】

検査中や前処置中には、以下のような合併症が発生する可能性があります。

- ① 送気による血圧低下、気分不快感
- ② カメラがこすれることによる粘膜裂傷や出血や消化管穿孔(腸に穴があくこと)
- ③ 粘膜組織の一部を採取すること(生検)やポリープ切除に伴う出血や消化管穿孔
- ④ 前処置(下剤内服)に伴うアレルギー反応や腸閉塞、腸管穿孔
- ⑤ 使用する薬剤(咽頭麻酔剤・鎮痙剤・鎮静剤)によるアレルギー反応、低血糖、不整脈
- ⑥ 既存の疾患(脳梗塞・心筋梗塞など)の悪化、その他

日本消化器内視鏡学会が行った第 5 回全国集計(2010 年)では、これらの頻度は 0.078%、死亡率は 0.00082%、ポリープ切除に伴う偶発症は 0.274%と報告されています。

これらの偶発症が起こらないように当院では細心の注意を払って検査を行います。偶発症の合併はまれですが、発生した場合は可及的速やかに最善の対処をいたします。万が一、入院や手術(輸血などの処置)が必要になった場合、医療費は患者様のご負担となることをご了承ください。

【料金について】

◎料金の目安は、1 割負担の場合、およそ 2,000 円～10,000 円、3 割負担の場合、およそ 6,000 円～30,000円です。(使用薬剤、処置内容、生検個数により異なります)

※当院では患者様の清潔な環境を保つため、使い捨てのガウン、シーツ等を採用しております。そのため、**消耗品代として別途 1500 円(税込)**いただきますことをご了承下さい。

※検査当日、院内で検査前の下剤を内服希望される患者様には個室使用料として、**別途 1500 円(税込)**いただきますことをご了承下さい。

【内視鏡検査のキャンセルについて】

当院の内視鏡検査は完全予約制です。

検査をキャンセルされる場合は、**1営業日12時前までに必ずお電話でご連絡ください。**

無断キャンセルや当日キャンセルの場合、検査準備にかかった実費として、

- ・上部消化管内視鏡(胃カメラ) 2,000円
- ・下部消化管内視鏡(大腸カメラ) 3,000円
- ・上下部消化管内視鏡(胃・大腸カメラ) 5,000円

のキャンセル料を申し受けます。

日程変更はお電話で承りますが、変更は1回までとさせていただきます。

2回目以降は再度の受診が必要です。

多くの方に大切な検査を受けていただけるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

下部消化管内視鏡検査及び鎮静剤使用の承諾書

横浜あおば胃腸肛門内視鏡クリニック 院長 安西紘幸殿

■大腸内視鏡検査及び鎮静剤使用について

- ・今回、大腸内視鏡検査を依頼するにあたり、その必要性、安全性(合併症、副作用)、方法について、説明を受け、納得しました。
- ・鎮静剤を使用するにあたり、使用目的、安全性(合併症、副作用)、方法について、説明を受け、納得しました。
- ・検査中に内視鏡的切除が可能な大腸ポリープを発見した場合、内視鏡的大腸ポリープ切除の内容、必要性及び合併症などについて、説明を受け、理解しました。
- ・検査/治療中に緊急の処置をする必要が生じた場合は、適宜処置されることについても承諾します。

■抗血栓薬内服者における抗血栓薬の継続・中止について

- ・内服継続したまま検査を受けることの有益性と出血性合併症の危険性、どちらも十分理解した。事前に当院医師による指示が無い場合は、抗血栓薬内服を継続して検査を行います。
- ・抗血栓薬休薬の方
休薬して検査を受けることの有益性と血栓症の危険性、どちらも十分理解しました。
抗血栓薬を休薬するには、当院医師の指示が必要です。

患者都合で検査が中止となり、前処置の薬剤をすでに使用していた場合の費用は請求されます

上記内容を理解し、納得したうえで

- | | | |
|------------|--|---------------------------------|
| 大腸内視鏡検査を | ☐ 希望します | ☐ 希望しません |
| 鎮静剤の使用を | ☐ 希望します | ☐ 希望しません |
| ポリープ切除について | ☐ 当日検査中に切除を希望します。 | |
| | ☐ 後日改めて切除を希望します。 | |
| | ☐ その他() | |

年 月 日

患者氏名 _____

【検査当日の大切なお願い】

★当日は鎮静剤を使用するため、検査後しばらくは判断力や反応が低下することがあります。そのため、**車・バイク・自転車の運転は非常に危険です。ご自身での運転は絶対にお控えください。**

ご不便をおかけしますが、安全のため、公共交通機関やご家族の送迎をご利用くださいますようお願いいたします。

★糖尿病治療薬を服用中の方は、内視鏡検査前に使用する下剤との関係で、低血糖などの副作用が生じることがあります。**検査前の服薬については、当院は専門外で適切な指示ができません。必ず事前にかかりつけ医にご相談ください。**

安全な検査のために、ご協力をお願いいたします。

短期滞在手術同意書

(患者氏名) _____ 様

令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

【病名】

摘除すべき大腸ポリープが見つかる可能性があります

【治療計画】

摘除すべき大腸ポリープがあり、外来で摘除が可能と判断した場合には、内視鏡的に摘除します

【検査内容および日程】

令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ に大腸内視鏡検査を行います

【手術内容】

摘除すべきポリープを内視鏡的に摘除します

【手術後に起こりうる症状とその際の対処】

内視鏡手術では下記の危険性があります。

- 1) 摘除時に出血することがあります
輸血を必要とするような大量出血の可能性は、全国集計で0.007%程度あります。
- 2) 摘除時に腸の壁に穴があくことがあります(穿孔)
内視鏡的摘除時の穿孔の可能性は全国集計で0.02%程度あります。

これらが発生した場合は、当院または関連する施設において、適切に治療を行います。

(主治医氏名) _____ 安西 紘幸 _____

私は、現在の疾病の診療に関して、上記の説明を受け、十分に理解した上で、短期滞在手術を受けることに同意します

(患者氏名) _____